

4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する三つのポリシー

品川駅 えきまちコンセプトの実現に向けて、次の三つのポリシーを定めます

継承 × 革新 Timeless × Innovative SHINAGAWA Integrated City

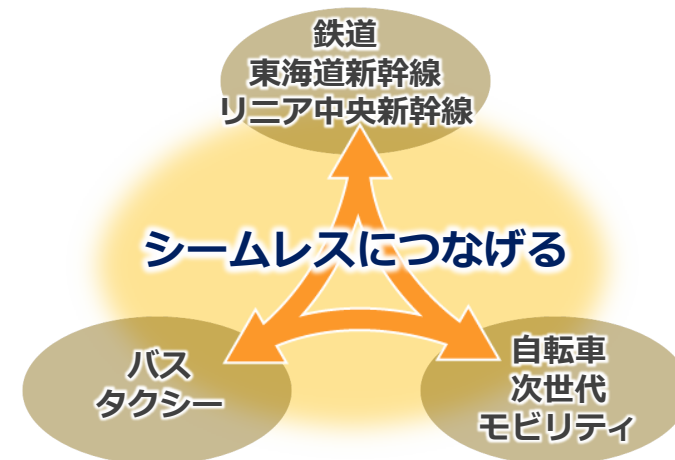
①それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける



②広場やデッキ等をいかし、自然とえきまちをつなげる



③多様で立体的な交通モード間をシームレスにつなぐ



4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する三つのポリシー

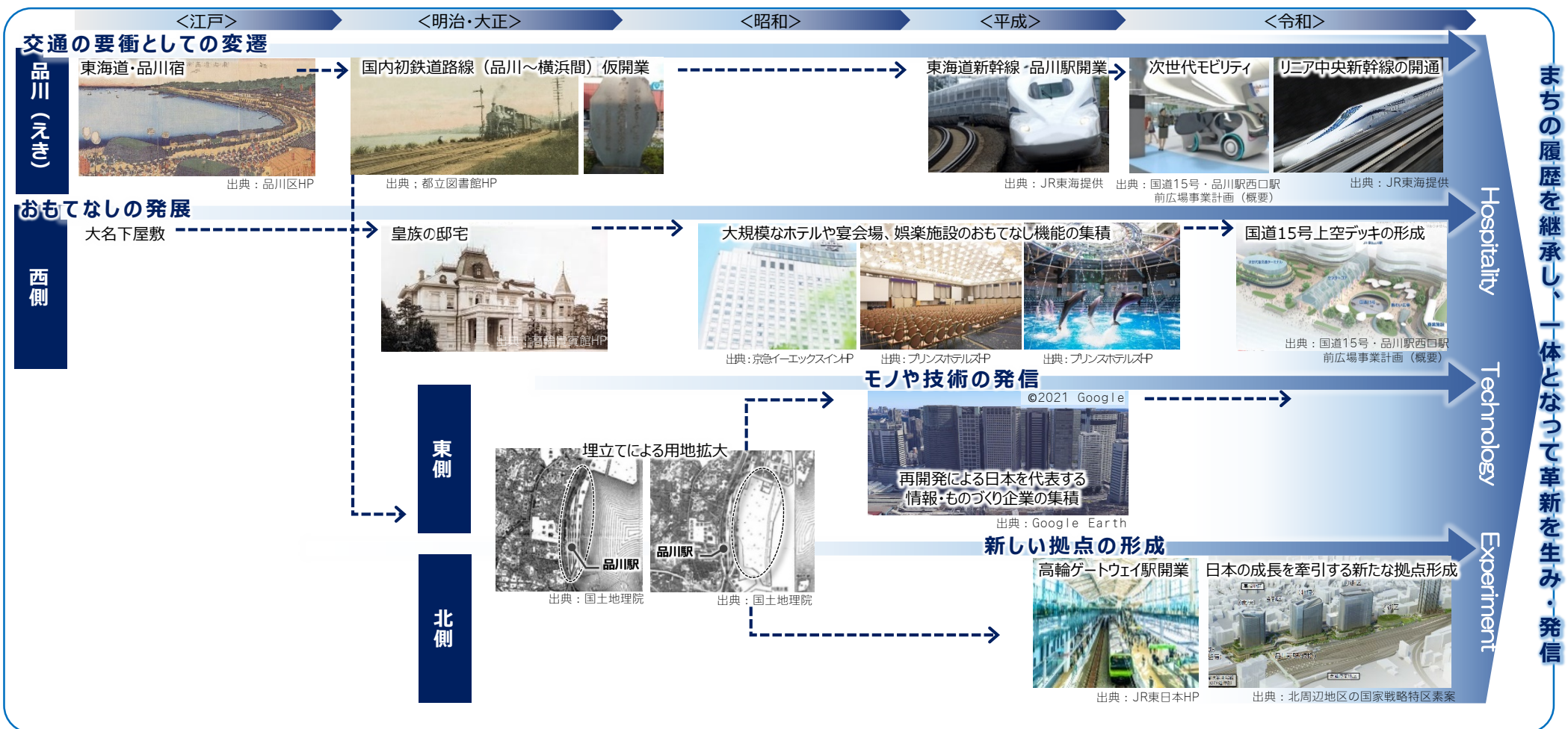
①それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける

■「まちの履歴＝品川らしさ」の継承

品川駅周辺は崖線、緑、海等の豊かな地形・自然等を活用しながら、ホテル等の集積によるおもてなし空間の形成や新幹線の開業、日本を代表する情報・ものづくり企業の集積、鉄道車両基地活用による新市街地等、その時代のニーズに応じてきた「まちの履歴」があり、これらが現在・未来へと継承すべき品川らしさにつながっていることから、「まちの履歴」を継承することが必要です。

■革新を生み発信し続ける

日本の玄関口として、品川らしさである「まちの履歴」を継承しながら、今後予定されている国道15号上空デッキや次世代モビリティ、リニア中央新幹線等を加え、文化・技術等の革新（イノベーション）を生み、発信（実験・実証・挑戦）をし続けることで、国際交流拠点の強化を目指します。



4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する三つのポリシー

② 広場やデッキ等をいかし、自然とえきまちをつなげる

■ 「自然」と「えきまち」がつながる一体的なエリア

駅西側の武蔵野台地が駅東側の海に近いところまで迫っていた地形と、鉄道開業による土地の広がり（埋立て）により形成されてきたまちです。

かつて一続きだった台地と海を緩やかに連続させながら、自然とえきまちがつながる一体的なエリアを目指していきます。



江戸期

武蔵野台地が海に近い位置まで迫る、特徴的な地形
大名屋敷や台地から海を臨む風光明媚な場所



出典：品川区HP

明治期～昭和

1872年 | 品川駅開業
市街地の外縁部であった海沿いに鉄道が敷設

その後、海の埋立てによる
東側への土地拡大で、東
西、それぞれにまちが形成

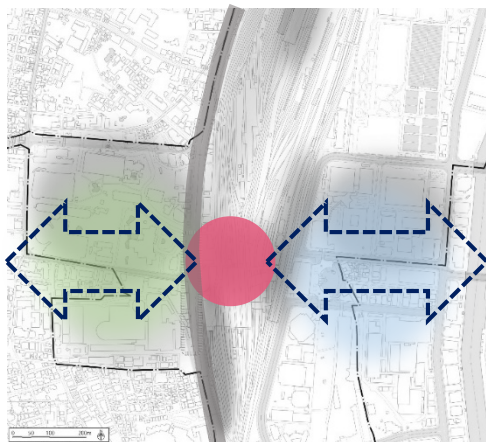


出典：都立図書館HP

現在のまちの構造

鉄道や幹線道路が東西の行き来を妨げる一方、
それぞれが特徴あるエリアとして発展

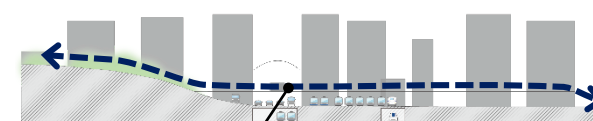
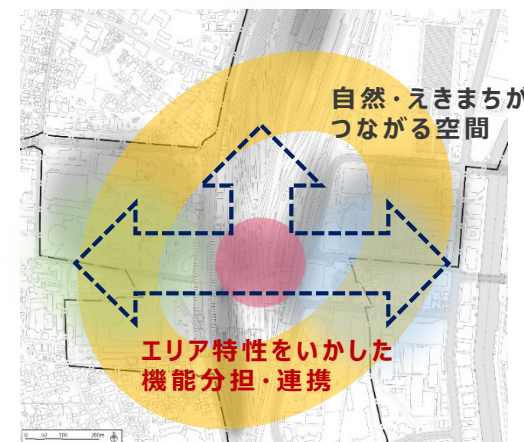
鉄道（鉄道用地）と幹線道路による
東西のまちの分断



将来のまちの構造

分断された東西をデッキレベルで接続し、周辺に広がる台地
と海が一続きになる土地の記憶をよみがえらせる

デッキ整備による
台地と海が連続する空間整備



デッキレベルでの接続

4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する三つのポリシー

③ 多様で立体的な交通モード間をシームレスにつなぐ

■ 各機能をシームレスにつなぐ

品川駅は、東京と日本の各地を結ぶ広域交通の拠点であり、また、国際空港との近接性をいかした国外とを結ぶ玄関口として位置付けられます。首都圏近郊に対しては、在来線のターミナル駅として各鉄道への乗換えなども行われる交通拠点としての役割も担っています。

今後は、新たなモビリティの導入により利用者側の選択肢が更に増えることから各モード間をシームレスにつなぐ重要性が高まるとともに、総移動時間の短縮とそれに伴うゆとり時間の活用にも配慮した計画が重要となります。

また、地区内を徒歩移動する人にわかりやすい動線やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した空間づくりや地区内での物流分野を支えるインフラ整備を含め、「人」と「モノ」の移動の円滑化を図っていくことも重要となります。



新たな交通機能

リニア中央新幹線 | 国内3大都市圏
がおおむね1時間以内で結ばれる



出典：JR東海提供

地下鉄新線(構想) | 都心西側エリア
とのアクセス性向上

次世代モビリティ | 小型モビリティや
パーソナルモビリティ、オンデマンドバスな
どの導入による地区内及び近距離への
移動を円滑化



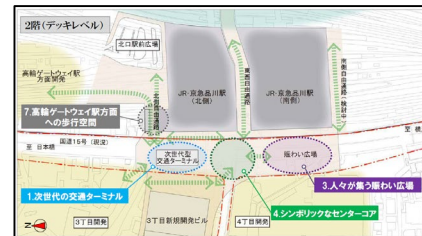
出典：国道15号・品川駅
西口駅前広場事業計画 (概要)

新たなサービス (ソフト)



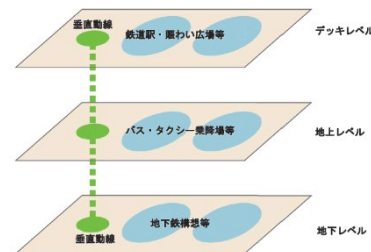
明快な空間づくり (ハード)

デッキレベルを基軸としたバリアフリーかつ次世代
モビリティに配慮した歩行者ネットワークの形成



出典：国道15号・品川駅西口駅前広場事業計画

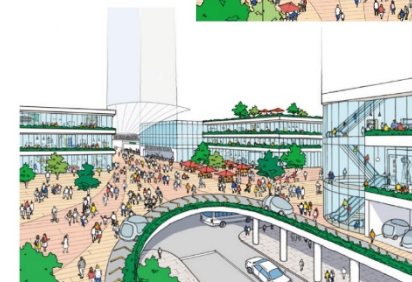
デッキレベルと地上部、地上部と地下部
を結ぶ垂直動線の確保



出典：GL2020 (東京都, 2020)

多様な交通モード間をシームレスにつなぐ

多様で立体的な交通モード間をシームレスにつなぐと
ともに、総移動時間の短縮とそれに伴うゆとり時間
の活用にも配慮した空間の形成



出典：GL2020 (東京都, 2020)